

## 報 告

## 国立国会図書館関西館見学会に参加して

伊勢 知恵

2004年2月25日、国立国会図書館関西館見学研修に参加した。関西館は京都府精華町に2002年10月に新設されたばかりで、見学して非常に魅力的な図書館だと思った。建物は地上4階地下4階で、その外観は「大きく美しい森」といった印象であり、周囲を取り巻く豊かな自然によく映えていた。

研修は短時間にポイントを絞って行われた。まず研修室でビデオを見た。東京本館では国会へのサービスを主に行っているが、関西館では遠隔利用サービスやアジア情報サービスの他、電子図書館事業、図書館情報学研究も行っている。年間の利用者数は17万人程度で、蔵書数は現在320万冊である。

ビデオ鑑賞の後、図書館員の方の説明を受けながら館内を見学した。地下の書庫や、大勢のスタッフの方が働いている様子を間近に見た。地下まで自然光を採り入れ、隅々まで計算された居心地のよい館内は素晴らしく、設備も最新のものであった。

館内見学後、希望者のみ各人で一般利用者に混じり、閲覧室を見学した。関西館の図書館利用システムは最新であり、興味深いものであったため、以下に概略を述べる。

閲覧ゲート横にある利用者登録コーナーの画面上で、利用者本人の氏名などを入力し、「館内利用者カード」を作成する。広い閲覧室は、

総合閲覧室とアジア情報室の2つに分かれている。総合閲覧室の電子出版物利用席では、New JOIS や電子ジャーナルなどが利用できる。機器操作の不明点は、腕章をつけたスタッフが対応してくれる。一般利用者への資料の貸出は行わないが、複写サービスや電子情報の印刷サービスは有料で利用できる。資料請求の際、検索画面上で「閉架」と表示された資料については、「申込」ボタンを押して申し込むと、書庫から取り出され、自走台車で閲覧室に届けられる。資料が到着すると、「到着案内ディスプレイ」に利用者カードの番号が表示される。ディスプレイはカフェテリアにも設置されており、例えば待ち時間に食事やお茶を楽しむこともできる。

この日閲覧室の利用者は少なかったが、このことがかえって閲覧室を静かで快適な「読書人の隠れ家」といった雰囲気になっていた。

研修は非常に有意義なものであった。病院図書館という小規模で特殊な図書館に勤務する私にとって、「本来の司書業務」を見る機会は大変貴重である。研修部の林さんは、それを「私たちの趣味のようなもの」と言っていたが、なるほど私自身、時間がたつのを忘れてしまいそんな空間であった。ここでは図書館員の研修も行っているそうなので、今後機会があればぜひ参加したい。